

青森県西津軽郡  
鰺ヶ沢町  
面積 3,408 km<sup>2</sup>  
総人口 11,449 人  
人口密度 33 人/km<sup>2</sup>  
町の中心地  
町の形は「ア」



「落っこすなよ」 澄み切った空の下、こたます元気な声。スイカは知る人ぞ知る鰺ヶ沢の夏の名産品。いくら機械が発達しても、収穫は手作業のままです。

あじがさわの  
スイカは、  
空を飛ぶ。

日本に世界遺産は数あれど、世界自然遺産はたった1つ。「知床」「小笠原諸島」「屋久島」、そして世界最大級のフナノ原生林が分布する「白神山地」。そんな稀有なる白神山地の登録区域面積が日本最大の4,650haを誇る青森県西津軽郡鰺ヶ沢町。世界自然遺産の町としばしば語られる鰺ヶ沢ですが、目を凝らして見ると、決して白神山地だけではない、イキキと光り輝く人々やモノの姿が見えてきます。白神山地に負けない生き方を貫く人々やそこから生まれる産物たちに、スポットを当て新しい鰺ヶ沢を発見する「負けらいね新聞」第1号のテーマは「鰺ヶ沢、夏の新名所」。鰺ヶ沢に來たらまずは白神山地に！と思いきや、決して見逃せないこの町ならではの見どころがいっぱい。ずっと残していきたい鰺ヶ沢の風景をご紹介します。



工藤農園  
工藤幸弘さんの  
スイカ

癒しの  
香りを運ぶ、  
あじがさわの  
小さな富良野。

春から夏にかけて、鰺ヶ沢町の随所では花たちの競演が見られます。岩木山麓の菜の花やポタンの美しさも外せませんが、今回ご紹介したいのがラベンダー。ラベンダーと聞けば、北海道富良野がまず思い浮かびますが、意外や意外、鰺ヶ沢にも美しく紫の花を咲かせるラベンダー



マリー・ハープガーデン  
加藤清二さん、  
れい子さんご夫妻

あじな風景  
夏編



工藤幸弘さん

## 世界自然遺産に

もいだスイカを放り投げる人。それを受け止め次の人に放り投げる人。スイカを受け取り、トラックの荷台に放り投げる人。飛び交う汗と、緑の球。おっと、ナイスキャッチ。落とさないのは、愛情の証。8月の最盛期には、地元の学生たちがお手伝い。こうして出荷される糖度11度のスイカは、味にうるさい猿も食べに来るとか。「鰺ヶ沢でスイカに塩をかけて食べる人はいないね。塩をかけないとダメなのは、スイカの匂いがしてるだけだよ」そう話すのは、長年スイカ栽培に取り組み工藤農園の工藤幸弘さん。空飛ぶスイカの風景、そして本物のスイカをいちどき賞味あれ。

スイカの収穫は  
ひとひたの手作業



鰺ヶ沢の  
夏の名物、  
空飛ぶスイカ

「畑があるのです。その畑「マリーハーガーデン」の主は加藤清二さん、れい子さんご夫妻。旅行で訪れた富良野の丘陵地帯に咲くラベンダー畑の風景が忘れられず、自分たちでもキレイなラベンダー畑を作りたいと思い、富良野からラベンダーの苗木を取り寄せたのが二十数年前。自分で楽しむことが目的だった加藤さんのラベンダー畑は、口コミで徐々に広まり、丘の上に広がる紫のじゅうたんは、夏の訪れを告げる鰺ヶ沢町初夏の風物詩となりました。ところで「マリーハーガーデン」…なぜハーガーデンと言うのでしょうか？「ラベンダーの紫色をキレイに出すには無農薬が第一。だから

あじがさわの  
イカは、空を舞う。

スイカ、ラベンダーと来て、やはり鰺ヶ沢で外せないのが海。海岸線沿いにクルマを走らせれば、香ばしい匂いとともに、不思議な光景が目に見え込んできます。何軒にも渡って、何かが整然と干され潮風に揺れている風景。あつ、イカ



いかにの由利  
由利恵子さん

イカのカートン

だ！生干しイカは、鰺ヶ沢を代表する海の特産品。鰺ヶ沢の味として老若男女問わず愛され、キレイに捌かれたイカが風にたなびく、通称「イカのカートン」は鰺ヶ沢の風物詩となっています。「単に干すのではなく、太陽の光と日本海の潮風にさらし、イカの旨味をギュッと閉じ込めるのが美味しさの秘訣。イカってこんなに味が濃いものだったんだーと驚く人が多いですね」と話すのは「いかにの由利」を営む由利恵子さん。青森ではイカは1年中獲れますが、特に美味なのは7月から8月。日本海を目の前に眺めながら、焼きたてのイカを食べられるようにと設置されたデッキがうれしい。おっ！そこに、初々しいカップルが「アツアツのイカと、アツアツの恋。鰺ヶ沢の青春には、イカが付きものようです。





# 世界自然遺産に



手つかずの自然。流れ来る清らかな水。そして、生み出される豊かな産物。今日も目一杯、世界自然遺産・白神山地の恵みを受けて暮らしている。けれど、この町は、世界自然遺産、白神山地だけじゃない。

奥津軽、青森県鯨ヶ沢町にじっと目を凝らしてみると、世界自然遺産に負けない生き方を貫くイキイキとした人々やモノの姿が見えてきました。

\* 魚けいねは、津軽地方の方言で「負けるもんか」を意味します。

